

第38集 食道がんについて

山都町立蘇陽病院 院長 水本 誠一

激動の平成23年が終わろうとしています。町民の皆さんはお元気で年の瀬をお迎えのことと推察いたします。さて、年末年始は飲みすぎ食べすぎが心配される時期です。そこで今回は、食物が通ってゆく道、食道の病気で最も怖い「食道がん」についてお話しします。

1. 食道がんとは

1) 食道の位置

食道は、のどと胃の間をつなぐ長さ 25cm ぐらい、太さ2~3 cm の管状の臓器です。食道の大部分は胸の中にあつて、気管、背骨、心臓、大動脈、肺など重要な臓器に囲まれています。食道は、口から食べた食物を胃に送る働きをしていますが、消化機能はなく、食物の通り道にすぎません。

2) 発生部位と細胞

食道がんは食道の内面をおおっている粘膜の表面にある上皮から発生します。食道の上皮は皮膚と似たような扁平上皮でできていて、食道がんの 90%以上が扁平上皮がんです。

3) 進行

扁平上皮がんは、大きくなると奥の粘膜下層に広がり、さらにその下の筋層に入り込み、さらには食道の壁を貫いて食道の外まで広がっていきます。食道の周囲には重要な臓器が近接しているので、がんがさらに進行するとこれら周囲臓器へ広がります。

食道の壁の中と周囲にはリンパ管や血管が豊富です。したがって、リンパの流れに沿って、食道のまわりのリンパ節だけではなく腹部や首のリンパ節に転移することもあります。血液の流れに入り込んだがんは、肝臓、肺、骨などに転移します。

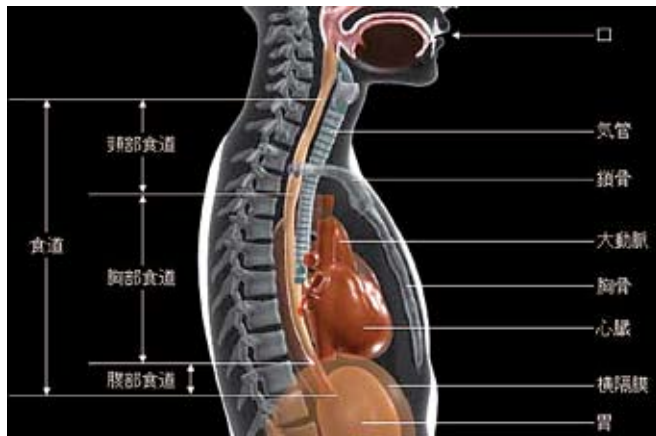
4) 発生要因

原因ではっきりしているのは、喫煙と飲酒です。両方される方ではさらに危険度が高くなるとされています。

またアルコール度の強いお酒を飲む地域（中国の老酒、ロシアのウォッカなど）では発生率が多いことが知られています。日本でも焼酎を割らずに飲む地域で高い発生が知られています。また熱いものを飲んだり食べたりする地域も同様です。みなさん要注意です。

2. 食道がんの症状

早期では無症状のことが多く、検診で偶然見つかる場合があります。当然、治る確率が高いがんです。一方、がんが進行すると「食道がしみる感じ」や「食物がつかえる」などの症状が出ます。さらに大きくなると、食道を塞いで水も通らなくなり、唾液も飲み込めずにもどすようになります。そして、がんが食道の壁を貫き、まわりの肺や背骨、大動脈を圧迫するようになると、胸痛・背部痛や咳、血痰や声のかすれなどが現れてきます。こうなるとかなり病状は進行しており、命を救うことが難しくなります。



3. 診断方法

1) 食道造影検査（レントゲン検査）

バリウムをのんで、それが食道を通過するところをレントゲンで撮影する検査です。検査は苦痛を伴わず検診として有用です。造影検査では、がんの場所やその大きさ、食道内腔の狭さなど全体像が見られます。

2) 内視鏡検査

内視鏡の先端にはデジタルカメラが搭載されており、直接食道内を観察する方法です。病変の位置や大きさのほか、病変の数、病巣の広がりや表面の形や色調などから、がんの進展の深さを判断することができます。もう1つの内視鏡検査の大きなメリットは、直接組織を採取し、顕微鏡でがん細胞の有無を診断できることです。無症状の初期食道がんを見つけるために内視鏡検査は極めて有用であり、レントゲン検査で異常が認められなくても、内視鏡検査で見られることもあります。

3) その他

このほか、CT、MRI 検査、超音波検査、PET 検査、腫瘍マーカー検査などが行われます。がんの進行程度を正確に診断することは、治療法を選択する上で非常に重要なことです。

今年も山都町の住民検診、がん検診はほぼ終了しましたが、もし精密検査の必要が指摘されたら、どうぞ怖がらずに精密検査を受けるようにしましょう。

(参考：国立がん研究センターのホームページ)

蘇陽病院だより

～蘇陽病院基本理念～

「へき地医療拠点病院として、患者様に信頼される良質な医療を提供し、地域住民に親しまれる病院を目指します。」

もっと知りたいクスリの話

第10集 胃薬について

山都町立蘇陽病院 薬剤科 奥村真利子
監修 院長 水本 誠一

クリスマス、忘年会、正月、新年会と恒例の行事がつづく、ついつい飲み過ぎたり、食べ過ぎたりして胃に負担をかけてしまいます。症状も、胸やけ、胃もたれ、消化不良、胃の痛みなどさまざまです。そのため、症状にあった胃薬を正しく選ぶことが大切です。今回は、代表的な胃薬の種類とその特徴についてお話しします。

- 胃酸の出すぎを抑える薬・・・胃酸は、食べ物に付いた菌の殺菌や、消化を助ける重要な働きをしています。何らかの原因で胃酸が出すぎると、胃酸は胃の粘膜を傷つけて胃炎や胃潰瘍になることがあります。そこで、胃酸の出すぎを抑えることで、このような病状を改善します。
- 胃酸を中和する薬・・・出すぎた胃酸を中和して胃の粘膜のダメージを少なくする働きをします。
- 胃の粘膜をもとどおりにする薬・・・胃酸等で傷つけられた胃の粘膜をおおって修復する働きをします。
- 胃粘液の分泌を高める薬・・・胃粘液は、胃の粘膜を守るバリアー（防御）の働きをしています。胃粘液の分泌をさかんにして、胃酸などの攻撃から胃の粘膜を守る働きをします。
- 消化を助ける薬・・・食べ物を消化する酵素を補い、消化を助ける働きをします。

お薬 ひとこと

胃炎や胃潰瘍と同じ症状で、実は胃がんが潜んでいる場合もあります。市販薬を服用して、症状が改善しなかったり、一度良くなっても再び悪くなったりする場合は、医療機関を是非とも受診しましょう。

